

中國出土資料學會

平成22年度第2回例会と科研「中原楚文化プロジェクト」の特別連携シンポジウム

日時：平成22年12月4日（土）

受付開始 12:30～

研究報告 13:00～17:30

場所：東京大学法文2号館1番大教室

（東京都文京区本郷7-3-1）

会場へのアクセス：地下鉄丸ノ内線・大江戸線本郷三丁目徒歩8分、

南北線東大前徒歩3分

千代田線根津徒歩10分

報告Ⅰ：平勢隆郎氏（東京大学東洋文化研究所教授）

題目：楚文化地域における楽器の形状変化と詩

概要：平勢隆郎さんは中国古代史の視点に即して戦国中期の楚文化地域における編鐘の小型化とメロディの複雑化と詩の関係を検討し、社会構造の変化がこれらに何をもたらしたかについて報告されます。

報告Ⅱ：徐志嘯氏（復旦大学中文系教授）

題目：論楚辞産生的楚歴史文化因素

概要：徐志嘯さんは先秦文学、特に学際的比較楚辞学の視点に即し、「楚辞」作品生成の基となった「荆蛮」や「楚覇」の歴史的文化的要因について報告されます。

報告Ⅲ：湯漳平氏（漳州師範学院中文系教授）

題目：關於楚辞中之楚語研究問題

概要：湯漳平さんは道家文化と楚辞の比較研究及び主編書「楚辞学通典」に開示した楚辞中の楚語217条に即し、楚語研究の歴史、代表的人物、著作と研究方法について体系的に報告されます。

報告Ⅳ：黄靈庚氏（浙江師範大学人文学院教授）

題目：出土簡帛対楚辞文献破解

概要：黄靈庚さんは小学（文字・音韻・訓詁学・古典文献学）と出土文献を融合させる二重証拠法の視点に即し、「楚辞」の文字校定及び「楚辞」文献の新しい読み方について報告されます。

◎各講演ごとに質疑応答を行い、また全講演終了後には総合質疑を行います（通訳あり）。

☆参加費（資料代）500円

☆非会員の来聴も歓迎します

連絡先

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部

中国語中国文学研究室

大西研究室

Tel 03-5841-3822（直通）

Fax 03-5841-3823

E-mail: syutsudo@u-tokyo.ac.jp

郵便振替口座 00180-5-13124

